

「苗場山麓ジオパーク」

を目指した取り組みの紹介

一河岸段丘と雪、そして縄文一

苗場山麓ジオパークとは

苗場山麓ジオパークは、新潟県の南に位置する津南町を中心とした苗場山北側の山麓エリアを範囲としています。

苗場山の麓から端を発する中津川と大地の隆起がつくりだした「日本一の河岸段丘」、鳥甲山や苗場山の溶岩からなる「柱状節理」、「風穴」など、中津川流域には大地の息吹を感じることができるスポットが点在しています。

古型マンモスの臼歯化石や貝の化石なども見つかっており原始のロマンに思いを馳せる事もできます。

苗場山麓ジオパークのテーマ、それは、河岸段丘の大地の上に、「豪雪」によって豊富な「湧水」が生みだされ、その湧水によって動植物が育まれていること、そしてブナ林などの豊かな植物相によって、それを利用する人々の活動の歴史が3万年前まで遡ることです。

そして「火焰型土器」に代表される「縄文文化」が花開きました。

江戸時代には、文人 鈴木牧之が、「秋山郷」を旅し景観や生活風景を細やかに描いています。その情景は現在も残り、「秘境・秋山郷」として、私たちも体感することができます。

また、結束集落では明治時代の開墾で、鳥甲山や苗場山の溶岩である柱状節理の岩片を利用して、石垣田がつけられました。私たちの祖父母は、大地の産物を利用して暮らしを営んできたのです。

河岸段丘、柱状節理、地滑り地帯、信濃川断層帯（内陸地震帯）などに「縄文文化」由来の「雪国文化」を含め、苗場山麓北側を「苗場山麓ジオパーク」として、自然環境の保全、地域防災や地域資源の活用に取り組んでいます。



遥か 40 万年前から始まった大地の軌跡
その大地に育まれた縄文の文化



基幹施設と取り組み

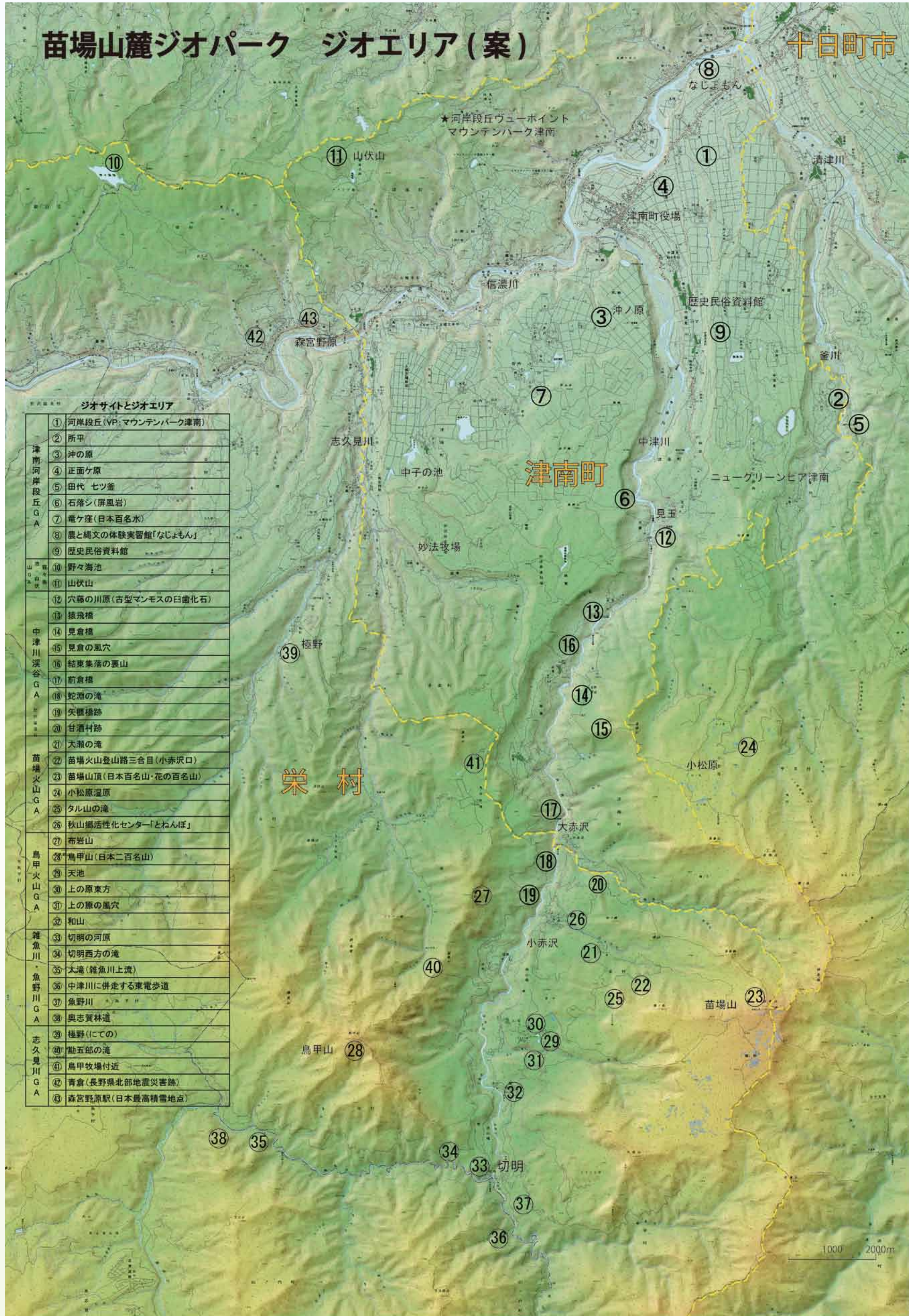
農と縄文の体験実習館「なじよもん」は、「農業」と「縄文」をテーマに、体験を中心として五感を通して学ぶ新しい形の博物館です。

この他に自然観察、伝統民俗技術伝承などにも取り組み、この施設を中心とした、ジオパークの展示やジオツアーの開催、津南を学ぶ「津南学講座」などを実施しています。

これらの活動を通して、地質学的景観、自然環境、歴史文化的景観を保全し、体験活動により郷土教育や防災教育を展開し、ジオパークエリア全体を地域の子どもたちが学び、生きる力と智慧を身につける場として活用することを目的としています。

そして苗場山麓ジオパーク推進準備室では、「苗場山麓ジオパーク振興協議会」を設立し、「学術検討委員会」の指導の下、町民が一体となり、隣接する栄村・十日町市とも連携し整備を実施しています。

町全体への周知のための「広報誌」の利用、幟製作、マップ作りなどの広報事業の実施。観光部局と連携したジオサイトの整備、案内看板や解説板の設置。農と縄文の体験実習館を基幹とした、「苗場山」や「災害」をテーマにした展示会や講演会の開催および冊子の作成。そして「苗場山の麓」を巡る（5月26日開催）などのジオツアーの開催。ジオツアーガイドの養成のための学習会の実施などを予定しています。



ジオパーク講座



ジオパーク展示



ジオパーク学術検討委員会



津南町農と縄文の体験実習館なじよもん



縄文1日体験

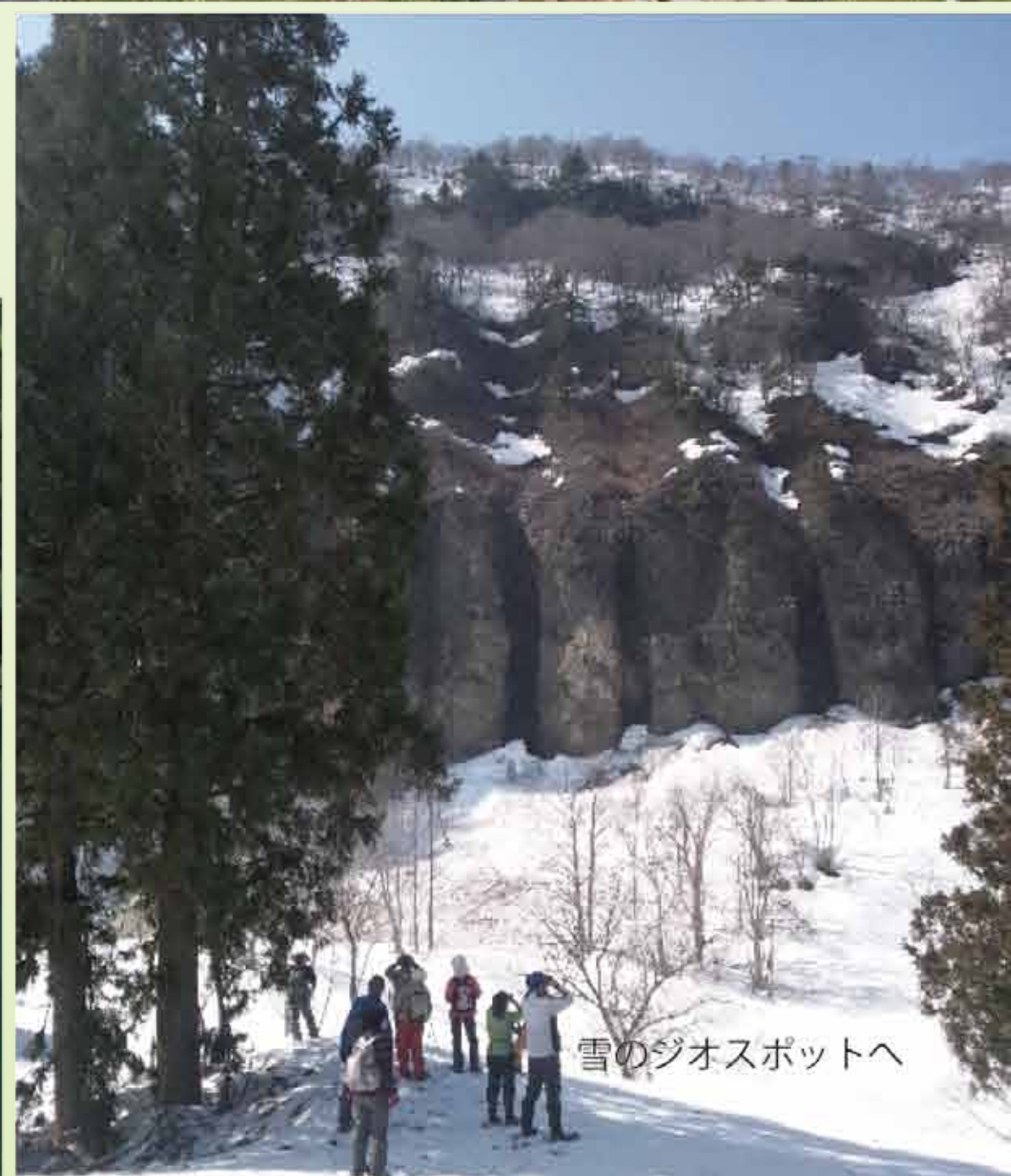


ジオツアー・体験実習

湧水を巡る



小松原湿原の道を歩く



雪のジオスポットへ



苗場山麓ジオパーク推進準備室
新潟県・津南町教育委員会